

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議
					教育長 企画商工観光課

別記様式第4号

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	
		決裁期日	平成30年10月29日
名 称	まちづくりトーク テーマ「かみふの未来を語り合おう」		
日 時	平成30年10月24日(水) 午後6時30分～午後8時00分		
場 所	保健福祉総合センターかみん 研修室		
出席者	出席者：30名（受付名簿別紙） 町：向山町長、石田副町長、服部教育長 企画商工観光課：辻課長、野寺主幹 町民生活課：北越課長、床鍋主幹、船引主査、小野主査、徳道主事 合計40名		
内 容	<p>1 開会 北越町民生活課長の司会により進行</p> <p>2 町長挨拶</p> <p>向山町長：ご多忙の中、まちづくりトークにお集まりいただき感謝申し上げます。情報化、少子化、高齢長寿化が進み、これまで経験したことのない人口減少時代という新たな社会構造に変化してきている。第5次総合計画が今年度終了し、来年度から新たなまちづくりの指針となる第6次総合計画を策定する作業を現在進めている。第6次総合計画を進める中で、協働のまちづくりを中心に全ての町民の方が、それぞれの立ち位置や職域の壁を超え新しいまちづくりを進めていけるように皆様のご意見を伺いたい。</p> <p>3 第6次上富良野町総合計画「かみふ未来ビジョン」前期基本計画の概要説明を野寺企画政策班主幹から資料に沿って説明。</p> <p>4 質疑・意見交換</p> <p>・北海道胆振東部地震でのいち早く行われた避難所の開設とお年寄りの対応について上富良野町の対応を評価したい。日ごろの町民の目線に立った運営が表れた結果。今後も町民の生活に密着した対応を未来につなげていただきたい。</p> <p>北越町民生活課長：意見としていただく。</p>		

- ・地域の独自性を出すことが上富良野のまちをさらに発展させる一つのポイントとなると思うが、独自性を出す事業として6次計画の中でどの事業に重点を置いているかの意見を伺いたい。

辻企画商工観光課長：具体的な事業については、総合計画の策定に向け活動している中で、それぞれの分野で連動する事業が出てくる。6次計画の策定に向けて、まちの資源を深掘りしており、現在取り組んでいるジオパーク構想では、大地の特徴を生かし、教育現場への活用、観光・経済振興に独自性をもってつなげていきたい。

向山町長：今は具体的な事業展開は説明できないが、これから産業振興、観光振興、子育て医療の充実など具体的な項目を入れ込んでいき、期待できるものをお見せできると思う。

- ・10年後の人口が9,500人になる予想で、現在人口のうち30%が自衛隊関係者。自衛隊に勤務される方の中で富良野市や中富良野町などの近郊に住み、通勤している方もいる。子育て支援で、他の市町村では子どもの医療の無料化が進んでおり、富良野市においても具体的に検討を進めると耳に入っていることから、さらに人口が流れていくのではと思うが、どのように考えている。

石田副町長：子どもの医療費の無料化については、上富良野町においても議論し、少しずつ充実しているところである。子どもが生まれて育つ課程の中で、子育てや医療費の一番お金がかかる時期には助成しなければならないと考える。病院に行けば病院代を支払うことは基本のことで、自分たちが負担する部分と応援する部分についてこれまで検討してきた。医療費の無料化という一つのサービスではなく、妊娠から子どもが自立するまでの20年間のなかで、どういう子育て支援の仕組みにしなければならないか、町で支援する部分、親として果たす責任、地域で支えていくものを交えながら考えていきたい。

- ・10年後子どもがどのような大人になってほしいとお考えか。

服部教育長：グローバル化、電子情報化、ICT化などAIが非常に発達し、今ある仕事が違うものになっていくだろうと言われている。子どもたちにはどのような状況になっても生きていける力をつけていかなければならない。これまで学校では、先生の話聞く形の授業だったが、グループで討議をしたり、自ら主体的に学ぶ形を進めている。

- ・どんな状況になっても対応できる子どもになってほしいと常々思っている。そのための教育として、他の県や学校ではテストの廃止などの取り組みを行っていると聞いている。学歴を重視するのではなく、主体的に自ら問題を解決していける施策を考えていただけたらと思う。

服部教育長：全国各地でいろんな方法が考えられている。ある県の保護者向けのアンケート調査で、これからの教育の視点、方向性は何かという項目の中では、直観力・想像力と理論的に人を説得する力が必要とされており、それに向けた

研究がされている。町においても色々なことを試していきたいと考えている。
向山町長：人間としてどのような成長を期待しているかに触れさせていただくと、強い人間になっていただきたいと思っている。小さい町なので、ある程度の生活の様子は把握できる。全ての基本は家庭から始まると思っているので、子育ての健全育成を図れる家庭環境をまちの責任として整えることが基本。医療費の無料化の話もあったが、一つの部分だけ突出するのではなく、町の特徴として、妊娠から成人するまで切れ目のない支援策を講じていくよう、さらにしっかりしていきたい。

- ・上富良野の目玉というものが無い。他のまちには目玉があり、それは能力のある人が集まってできあがっているものと考えていることから、目玉を作るにはどのような人材が必要で、どのように育成していくかを伺いたい。

石田副町長：これまでの総合計画のアンケートで、健康や生活基盤をしっかりしてほしいことが一番の思いとしてあると感じており、そこに力を注いでいくべきかと思っている。

辻企画商工観光課長：色々な場面で人材が重要と考えており、町では人材アカデミーを若手の産業関係者を中心とした投資的な事業として行い、育成している。町がきっかけづくりを行って環境を整え、総合計画に盛り込んでいきたいと考えている。

- ・小学校、中学校、高校ぐらいから、まちづくりトークのような人と接する機会や人に慣れること学ぶ機会を作ってもらえるとうれしい。ぜひお願いしたい。

石田副町長：子どもたちの感性でまちづくりを語り合うことは非常に重要。教育委員会でも話し合う機会を積極的に作ろうとしている。今回、総合計画の作成に向けて、子どもたちから10年後どのような町でありたいかを小学4年生と5年生を対象に将来のまちづくりの絵と作文を作っていた。子どもと大人、子ども同士で語り合う機会として実現できるものと考えている。

服部教育長：郷土の歴史を学ぶ学年では、これからの上富良野をどうしていくかを学ぶ取り組みをしている。それを発展的にできたらと思っている。

- ・まちづくりに参加できる機会があるとこれからの上富良野町を引っ張っていける人材ができると感じている。

安全で安心な町について、何か不自由ができたときに福祉が整っている町が安心できるまちだと思う。健康診断の受診率がすごく高いのも大事だが、何かあったときの手助けを町として考えていることはあるのか。

石田副町長：障がいや高齢などハンディキャップを背負ったときは、福祉の分野で様々なサービスがあり、一定程度のサービスが整っているものと理解している。それが十分でないこともあるので、その時々に応じての対策として、個別の事業の中でメニューの拡充、変換をしていく。

・人口減少対策について具体的に教えてほしい。子育て支援の中で、子育てサークルの話を聞くとあった。自分もサークルに入っているが、自分以外は自衛官の家族であり、近いうちに転勤ということがあるので、まちの未来の話より、現在の満足度を考えていると思う。転勤のない方々から話を聞くのが大事だと思うが、どのように考えているか。

向山町長：上富良野については自衛隊の隊員と家族が占めている割合が多い。最近では単身で来られる方も多く、家族で住んでいただきたいと話している。人口を維持、増やしていくためには、仕事が無ければ安心して住んでいただけない。上富良野町で安心して働ける産業構造をつくっていかないと人口の確保につながらない。6次計画で具体的に示したい。

・上富良野で育った子がこの場所に留まるとのことか。

向山町長：上富良野町は定住・移住対策として、上富良野で生まれた方に住んでいただくことがまず根幹。職を持って働いていただけることを町の構造にすることが基本。

・現実的に見込みがある話なのか。大体の人は高校を卒業後、大学や就職で外に出ていく状況。教育の話にもあったが、クリエイティブな仕事に向かいたいお子さんも多いと思うが、そのような仕事場を上富良野で作っていくという理解でいいか。

向山町長：上富良野らしい働き方を求めている方もいると思いますし、Uターン、Iターンされる方も多くなっている。都会と競争するのではなく、田舎らしさを最大限に活かした働く環境を作ることは可能だと思っている。

・移住に関して、これからどのようにしていく考えがあるか。

辻企画商工観光課長：生活体験をしていただき、お試し住宅を整備しながら進めている。上富良野町に仕事が無ければ、移住に結びつかない状況なので、移住定住と雇用が連動し複合的に進めていく仕組みにしたい。

・人材育成アカデミーの参加人数と効果について教えてほしい。

辻企画商工観光課長：2013年から始まり、3年で1クール。人材育成アカデミーを通じて、異業種の方がマッチングして新たな商売を始められた事例がある。現在はそれぞれの産業ごとの専門的な分野で人材の育成、交流が図られている。毎年延べ50～60人が参加されている。産業に関わる比較的若い世代で研修、人材育成が行われています。

・人材育成アカデミーはこれからも続けていくのか。

辻企画商工観光課長：今のクールは今年で終わりだが、来年度からの新しい総合計画の中で内容を充実していきたいと考えている。

・東川町はアートを目玉にまちづくりをしている。目玉を中心として町の力を集めるのも一つの方法。このまちの目玉の話をする場を設けるのも有効ではないか。その中に子どもたちも交えるのも大事だと思う。このまちづくりトークもグループに分かれて意見を出す方式で実践してはどうか。

石田副町長：一つの旗印に町民が思いを持って、みんなが興味を持つことは大事である。十勝岳ジオパーク構想では、自然がきれいということだけではなく、十勝岳の活動や成り立ちを知り、地域のことを学び、景観を保全することで地域の振興に役立てていこうと取り組んでいる。

- ・第6次総合計画の前期5年、後期5年の中で、全町民あがての魅力ある上富良野を作るには、皆で話し合うことも必要でないか。そこから目玉が生まれ、それを達成するために人材育成をつながると思ったところである。

向山町長：第6次総合計画の策定にあたり、皆で一体感を持ってスタートさせたい思いがある。これまでは行政が一方向的に話していく環境だったが、今後は皆さんが意見を出し合えるような形で早急に環境を整えていきたいと考えている。

子育て、医療福祉、教育、産業の活性化、特に皆さんからまちの目玉を作るべきではないかと意見を伺った。

地味でも安心して暮らしていける環境を考えてまちづくりをさせていただいている。来年度からの10年間で、まちの良さを広く町外に、町民の皆さんにPRできるような拠点づくりを計画の中に盛り込む。教育分野では教育環境をしっかりサポートしていく具体的な政策を盛り込む。高齢になったとき、介護が必要になったとき、医療が必要になったときに安心して地元で受けられるしくみも6次計画で構築し、町民の皆さんに示していく。

5 閉会